

「宗教とは何か」〈5年〉(R2.2.20)
～イスラム教を通して宗教を考える～
〈Contemporary Studies オリエンテーション〉レポート

講師：東京大学 人文社会系 研究科 博士課程 佐治 奈通子さん



今日考えてみたいこと

- ・イスラームは「中東」の「危険」な「宗教」のイメージ
 - ex) パレスチナ問題、同時多発テロ事件 (9.11)、アラブの春、IS (イスラム国)、難民...
 - イスラームは「中東」のものなのか?
 - イスラームは「危険」なのか?
 - イスラームは「宗教」なのか?
- ・イスラームは「一枚岩」なのか?
 - たとえば「仏教徒」「日本人」「若者」はみんな同じ?
 - その中にどんな多様性や個性があるのだろうか?
 - その中にどんな共通性があるのだろうか?
- ・私たちはイスラームについてどんなことを考えてみればいだろうか?



多様性と共通性：衣

- ・どのように身を飾り隠すべきか、クルアーンでははっきりと決められていない
 - たとえば女性の装いについては「美しいところを隠せ」としか書かれていない
 - 「美しいところ」とはどこ?
- ・各地の文化、気候、国家の政策、流行、家庭、個人などによって装いは多様に変化
 - スカーフ (ヴェール、ヘジャブ) / ブルカ / ニカブ / チャドルなど
 - 「スカーフ問題」: ムスリム女性が公の場でスカーフを着用することを禁じたり批判したりすること、それにまつわる議論や反発
 - ひとりの女性がスカーフをかぶる / かぶらないことの意味
- ・スカーフやブルカは「女性蔑視」「人権侵害」?
 - スカーフは、イスラームの宗教的象徴であり、ムスリム女性の抑圧であるという見方
 - 「着用したい」と思う女性の気持ちは?
 - スカーフやブルカを「女性蔑視」だと考えているのはいったい誰?

→ 一見イスラームの象徴に見える「スカーフ」にも、その人の置かれている環境や個人の考えが表れている



イスラム教徒の女性の

<p>ブルカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全身を覆うベール ▶ 伝統的にアフガニスタンのパシュトゥン人が着用 ▶ 顔と体を覆い、目元は網状になっている ▶ 旧支配勢力カタリバンが着用を強制 	<p>ニカブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 口や鼻を含めて全身を覆うベール ▶ 目の部分がわずかに開いている ▶ ワッハーブ派の影響で都市部を中心に普及 	<p>ヘジャブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ヘッドスカーフ ▶ 髪と耳、顔を覆うが顔は見える ▶ エジプトのムスリム同胞団を筆頭にイスラム世界で広く使用されている 	<p>チャドル</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イランやアフガニスタンで常用される伝統衣装 ▶ 髪と全身を覆うマント前が開いている ▶ 着用は強制されていない

○文化を**多様性と共通性の視点**から見つめ直しましょう。
 ・外部から見ると同じに見えますが、多様性が潜んでいます。